

宇部港

山口県土木建築部港湾課

〒753-8501 山口市滝町1-1

☎083-933-3820(直通)

URL : <https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cmsdata/6/3/0/6300be071cf5a70fea201883ccdfed71.pdf>



1. 概況

宇部市は、山口県の西南部にあり、かつては「緑ヶ浜」と呼ばれた白砂青松の続く一漁村であった。この宇部市が今日の繁栄を見るに至った原動力は、なんとといっても「山口炭田」として有名な石炭によるものである。

17世紀頃に、現在の常盤池付近で発見された石炭は、農家の自家用として利用されていたが、次第に瀬戸内海沿岸における製塩業の燃料として利用され、やがて日清戦争を契機として各種産業のエネルギー源として需要が急速に高まるとともに、海底炭田の開発が盛んに行われ始めた。

一方、炭鉱より排出された莫大な土砂(ボタ)により大規模な埋立が実施され、これらの埋立地は、絶好の工業用地として活用されるようになった。さらに、近隣の美祿市周辺で産出される豊富な石灰石を主原料とするセメント製造業をはじめ、化学、金属、機械、鉄鋼など各種工業の目覚ましい進展により、大正10年には宇部村から一躍市政をしくほどの発展をみるに至った。

こうした中で、明治30年頃、宇部港として新川西側に港湾施設が築造されたが、増大する港湾取扱貨物の要請に添えなくなったため、昭和3年から昭和8年にかけて、地元企業の手により南防波堤及び西防波堤が築造された。また、宇部市も灯台2基を建設し、近代港湾としての宇部港の外郭が形成された。

その後、鉱工業の急速な発展に伴い港勢の躍進はめざましく、港湾取扱貨物量は昭和5年に200万トン、昭和11年に410万トンへと急伸し、広く本港の重要性が認められ、昭和10年2月には第二種重要港湾に指定された。また、昭和13年4月には関税法による開港が行われた。

戦後、経済復興が進むにつれて石炭の需要は急増し、鉱工業生産の回復と相まって取扱貨物量も増大し、昭和26年1月に重要港湾の指定を受けた。

取扱貨物量は昭和30年には328万トンに回復したが、この頃より急速なエネルギー革命による石炭の地位低下は、地域経済に大きな影響をもたらした。このため、昭和36年に産炭地域振興臨時措置法の適用を受け、企業の誘致、既存企業の拡充や体質改善が図られた。また、西沖地区への西部石油の進出のように産業構造の転換も図られた。

現在、宇部市は人口16万4千人を擁する宇部・小野田工業地帯の中心都市として発展している。

特に、臨海部には化学工業、セメント製造業、機械等の素材型産業の企業集積があり、工業港の色彩が強くなっている。

これらの背後企業の活発な生産活動に対応するため、公共岸壁として昭和40年代後半には芝中地区、沖の山地区に-10m岸壁3バースを整備した。また、外貨取扱貨物への対応を図るため、昭和58年には芝中地区に-13m岸壁1バースを整備、船舶の大型化への対応から、平成9年度には芝中地区-12m岸壁1バースを整備し、現在航路の整備を進めているところである。

なお、平成2年4月には植物検疫港としての指定を受けるなど、国際貿易港としての条件整理も着々と進めている。

平成30年における宇部港の港湾取扱貨物量は3千130万トンに達し、輸入・輸出は46%を占め、船舶の大型化とともに、コンテナ貨物も急増している。

宇部市周辺では、山陽自動車道路宇部下関線、山口宇部空港の2500m化などの高速交通体系の整備されており、陸海空の結節点として宇部港は益々重要性を増してきている。

さらに、宇部地域は、テクノポリスとしての先端技術産業への転換が進められ、付加価値の高い加工組立型企業の進出が期待される所であり、今後はこれらに配慮した港湾の整備が期待されている。

また、背後には、既存のセメント、化学等の素材型企業の施設や技術力を活かしたりリサイクル施設が集積している。このことから、平成15年には、リサイクルポートの指定を受けこれらを利用した静脈物流の拠点の形成を図っている。

平成23年には徳山下松港とともに「国際バルク戦略港湾」に選定され、大型船舶での大量一括輸送により、我が国の産業に必要な不可欠な石炭を安定的かつ安価に供給する広域拠点港としての役割が期待されている。

一方、最近では、従来の物流機能の充実の要請に加えて、地域住民の親水への要求に対応した快適な港湾空間の創出や、港湾における地域間交流、レクリエーション活動等の生活空間の確保、また、廃棄物処理用地の造成等、市民に溶け込んだ港湾づくりが求められている。

このため、本港においては今後、県西南部地域の流通拠点港として、また、国際貿易港としてその地位にふさわしい港湾整備とともに、市民に親しまれる港湾施設の拡充を推し進めていくものである。